

愛知学院大学大学院 学位論文審査基準

文学研究科

I. 文学研究科の学位論文審査基準

文学研究科は宗教学仏教学、歴史学、英語圏文化および日本文化の4専攻から構成されている。4専攻の学位論文審査基準は、以下の通りである。

II. 専攻別学位論文審査基準

1. 宗教学仏教学専攻

(1) 修士論文

- ①研究テーマが明確に設定され、学術的意義があること。
- ②適切な研究方法が提示され、採用されていること。
- ③先行研究が十分に検討され、独創的な内容を有していること。
- ④論文は論理的に構成され、論旨の展開に矛盾がなく、結論が明解であること。

(2) 博士論文

- ①研究テーマが明確に設定され、学術的意義があること。
- ②適切な研究方法が提示され、採用されていること。
- ③先行研究が十分に検討され、独創的な内容を有していること。
- ④論文は論理的に構成され、論旨の展開に矛盾がなく、結論が明解であること。
- ⑤論文が公開されることによって、学界において一定の学術的な貢献をはたせること。

2. 歴史学専攻

(1) 修士論文

- ①問題意識が明確であること。
- ②歴史学のみならず関連領域に対する広い視野を明示していること。
- ③考古学においては技能的知識を踏まえていること。
- ④先行研究を踏まえた研究であること。
- ⑤明確な論旨が展開されていること。

(2) 博士論文

- ①先行研究を踏まえたうえで、独創的な視点が明確であること。
- ②歴史学のみならず関連領域に対する広い視野を明示していること。
- ③考古学においては技能的知識を応用して展開していること。
- ④適格に資料を活用して論旨を展開し、その結論が明確なこと。
- ⑤研究成果の社会的還元に努めていること。

3. 英語圏文化専攻

(1) 修士論文

- ①研究目的と研究対象が明確であること。
- ②先行研究を的確に検討し、目的に即した適切な研究方法が採用されていること。
- ③研究資料の収集が必要にして十分になされていること。
- ④文献やデータの分析と解釈が的確になされていること。
- ⑤論理的に一貫した構成と内容を備え、新知見や新規性を有すること。

(2) 博士論文

- ①研究目的と研究対象が明確であること。
- ②先行研究を的確に検討し、目的に即した適切な研究方法が採用されていること。
- ③研究資料の収集が必要にして十分になされていること。
- ④文献やデータの分析と解釈が的確になされていること。
- ⑤その領域および近隣の領域において、新たな研究成果を示していること。
- ⑥研究倫理上の問題がないこと。
- ⑦研究成果の社会的還元に努めていること。

4. 日本文化専攻

(1) 修士論文

- ①テーマ設定と解釈すべき対象が明確であること。
- ②先行研究を踏まえた新しい知見が示されていること。
- ③取り扱う資料、事例、データ、例文等の取り扱いが適切であること。
- ④論旨の展開に矛盾がなく、設定した課題に対する明確な結論が導出されていること。
- ⑤結論が当該学問領域において説得力を有していること。

(2) 博士論文

- ①テーマ設定と解釈すべき対象が明確であること。
- ②先行研究を踏まえた新しい知見が示されていること。
- ③取り扱う資料、事例、データ、例文等の取り扱いが適切であること。
- ④論旨の展開に矛盾がなく、設定した課題に対する明確な結論が導出されていること。
- ⑤結論が当該学問分野において説得力を有していること。
- ⑥当該学問分野の新知识と学術的価値を有していること。
- ⑦研究成果の社会的還元に努めていること。

心身科学研究科

(博士前期課程)

1. 該当学問領域における問題意識の的確性
2. 先行研究との関連性に基づいたデータの取り扱いの適切性
3. 研究内容の学術上の意義と該当学問領域への寄与度
4. 研究方法の的確性
5. 論文構成の的確性
6. 論旨展開の明確さと一貫性
7. 表記及び表現の適切性
8. 研究倫理の理解と研究におけるその遵守
9. 論文に関連した質疑応答の的確性

(博士後期課程)

1. 該当学問領域における問題意識の的確性
2. 先行研究との関連性に基づいたデータの取り扱いの適切性
3. 研究内容の学術上の意義と該当学問領域への寄与度
4. 研究の独創性
5. 研究方法の的確性
6. 論文構成の的確性
7. 論旨展開の明確さと一貫性
8. 表記及び表現の適切性
9. 研究倫理の理解と研究におけるその遵守
10. 論文に関連した質疑応答の的確性

商学研究科

修士

1. 論文テーマの明確さ
研究の意義と必要性を伴ってテーマが明確に説明されている。
2. 研究方法の妥当性
研究課題にとって適切な研究方法が採用されている。
3. 先行研究の吟味
該当する研究分野の先行研究を渉猟し、それを検討したうえで、当該分野の研究動向に自らの研究を位置づけている。
4. 論旨の一貫性
研究課題、先行研究のレビュー、分析・考察・検討等の過程を通じた結論への論理展開が一貫している。
5. 構成や表記の適切さ
学術論文として体系的に構成されており、表現の誤りがなく、さらに適切に文献の引用・参考がなされている。
6. 研究倫理の遵守
論文にねつ造、剽窃、改ざん等の研究不正がない。

博士

1. 論文テーマの明確さ
研究の意義と必要性を伴ってテーマが明確に説明されている。
2. 研究方法の妥当性
研究課題にとって適切な研究方法が採用されている。
3. 先行研究の吟味
該当する研究分野の先行研究を渉猟し、それを検討したうえで、当該分野の研究動向に自らの研究を位置づけている。
4. 論旨の一貫性
研究課題、先行研究のレビュー、分析・考察・検討等の過程を通じた結論への論理展開が一貫している。
5. 構成や表記の適切さ
学術論文として体系的に構成されており、表現の誤りがなく、さらに適切に文献の引用・参考がなされている。
6. 学術的貢献
学術的な独創性があり、当該分野の学術の発展に貢献するものである。
7. 研究倫理の遵守
論文にねつ造、剽窃、改ざん等の研究不正がない。

経営学研究科

博士前期課程(修士学位論文)

1. 研究に対する問題意識の明確性
2. 研究の学術的な意義と貢献度
3. 研究方法に関する適切性
4. 先行研究との関連性とその取り扱いの妥当性
5. 研究に関する倫理性
6. 論文構成の体系性と一貫性
7. 論旨展開の整合性と論理性
8. 論文の形式・表記・表現の適切性

博士後期課程(博士学位論文)

1. 研究に対する問題意識の明確性
2. 研究の学術的な意義と貢献度
3. 研究方法に関する適切性
4. 先行研究との関連性とその取り扱いの妥当性
5. 研究内容の独創性と新規性
6. 研究に関する倫理性
7. 論文構成の体系性と一貫性
8. 論旨展開の整合性と論理性
9. 論文の形式・表記・表現の適切性
10. 論文による専門的な新知見の提示
11. 論文の完成度と公表可能性

経済学研究科

<修士論文>

修士の学位の授与のための修士論文の審査については、学位申請者が提出した修士論文を主査1名、副査2名が審査する。その審査基準は以下のとおりである。

(審査基準)

1. 研究目的、問題設定の有意性・適切性・明確性
研究目的が明確であり、かつ問題設定が適切になされ、研究の意義及び必要性が明確に述べられている。
2. 研究方法の妥当性
研究目的及び研究課題に相応した学術上の研究方法及び分析方法が用いられている。
3. 先行研究及び情報収集の適切性
先行研究について十分な知見を有し、立論に必要なデータや史資料が適切に提示され、研究動向の中に自らの研究成果が位置づけられている。
4. 論旨の一貫性と独自の知見
全体の構成及び考察の過程において論旨が一貫しており、問題設定に対応した独自の知見や有用性のある結論が提示されている。
5. 構成、表現、表記等の適切性
学術論文として体系的に構成されており、章立て、引用、注釈、参考文献及び図版等に関して適切な表現・表記法によって記述されている。

<課題探求報告書>

修士の学位の授与のための課題探求報告書の審査については、学位申請者が提出した課題探求報告書を主査1名、副査2名が審査する。その審査基準は以下のとおりである。

(審査基準)

1. 探求目的、課題設定の明確性・適切性・有意性
探求目的が明確であり、かつ課題設定が適切になされ、課題探求の意義が的確に述べられている。
2. 探求方法の妥当性
探求の目的と課題に相応した学術的方法が用いられている。
3. 先行研究の把握及び情報収集の適切性
先行研究について相応な知見を有し、立論の中に必要なデータや資料が適切に提示されている。
4. 論旨の一貫性と独自の結果
全体の構成及び考察の過程において論旨が一貫しており、設定された課題に対応した独自の探求結果が提示されている。
5. 構成、表現、表記等の適切性
学術文書として体系的に構成されており、章立て、引用、注釈、参考文献及び図版等に関して適切な表現・表記法によって記述されている。

法学研究科

博士前期課程

以下の5基準により、論文の審査と試問をもって、修士論文の判定を行う。

- (1) テーマに関する分野の体系的な理解
- (2) 課題設定の適切さ
- (3) 先行研究・判例などの情報を収集する能力と、その取扱いの適切さ
- (4) 論理的な展開
- (5) 学術上の意義、独創性

博士後期課程

以下の5基準により、論文の審査と試問をもって、博士論文の判定を行う。

- (1) 専攻分野に関する高度な学識
- (2) 課題設定の適切さと、学術上の重要性
- (3) 先行研究・判例などの情報を収集する能力と、その取扱いの適切さ
- (4) 論理的な展開
- (5) 法学・政治学の発展に寄与できる学術上の意義、独創性

総合政策研究科

愛知学院大学大学院総合政策研究科の学位論文に関して、以下のように審査基準を設定します。

【博士前期課程 修士論文】

1. 問題意識が明確で、ディプロマ・ポリシーに掲げる学際性・公開性・問題解決力の項目が論文において充足されていると認められること
2. 研究課題の学術上の意義が明確で、学術論文に足る貢献が認められること
3. 研究方法が適切であること
4. 先行研究との関連が明確で、その取り扱いが十分に適切であること
5. 論文が適切に構成されていて、論旨展開が明確で一貫していること
6. 表記・表現が適切であること

【博士前期課程 課題研究】

1. 論旨の展開に一貫性があること
2. 具体的な成果が示されていること
3. 実務的有効性が示されていること
4. 成果の一般性を志向していること
5. 表記・表現が適切であること

【博士後期課程 博士論文】

1. 問題意識が明確で、ディプロマ・ポリシーに掲げる学際性・公開性・課題解決力の項目が論文において充足されていると認められること
2. 研究課題の学術上の意義が明確で、高い学術的貢献が認められること
3. 研究が独創的であり、斬新であること
4. 研究方法が適切であること
5. 先行研究との関連が明確で、その取り扱いが十分に適切であること
6. 論文が適切に構成されていて、論旨展開が明確で一貫していること
7. 表記・表現が適切であること

薬学研究科

- 1) 学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果について記載されていること。
- 2) 先行研究の評価や事実調査が的確であり、適切な論文の引用とともに明示されていること。
- 3) 研究背景に基づいた目的が適切に設定され、その意義や必要性とともに述べられていること。
- 4) 研究倫理を遵守した上で方法が具体的に記述され、適切な研究が実施されていること。
- 5) 実験や解析結果に基づいた考察が論理的に記述され、学術的あるいは社会的位置付けが記載されていること。
- 6) 研究の新規性、独創性ならびに発展性が十分に論述され、当該分野の学問や医療現場に貢献することが明示されていること。

歯学研究科

学位論文（主論文）審査

学位論文（主論文）の要件を満たしており、提出された関連書類と共に体裁および倫理面についての配慮が適切である事を確認した上で、次に定める事項に基づき審査する。

- 1) 研究の目的・背景の明確性
- 2) 研究方法の妥当性（計画・方法の妥当性・正確性）
- 3) 研究結果・考察の整合性
- 4) 研究の独創性・新規性
- 5) 研究内容の社会的意義・重要性
- 6) 研究発表能力・表現の明瞭性

学位論文（主論文）審査基準の内容

- 1) 研究の目的・背景の明確性
 - ・研究テーマが明確で、理論性、先進性、発展性の観点から妥当であるか。
 - ・研究テーマに関連する先行研究に関する情報を十分に調査・分析し、研究の背景及び目的を明示しているか。
- 2) 研究方法の妥当性（計画・方法の妥当性・正確性）
 - ・研究目的を達成するための方法論について正しく理解しているか。
 - ・分析方法に合理性があり、分析結果が正確で、かつ十分な説得力があるか。
- 3) 研究結果・考察の整合性
 - ・得られた結果の内容を、文章、図表等として適正で分かりやすく表示しているか。
 - ・結果について深く理解・考察し、結論に至までの論旨を理論的に展開しているか。
- 4) 研究の独創性・新規性
 - ・新しい発想に基づく研究であるか。
 - ・従来の研究と異なる斬新さがあるか。
- 5) 研究内容の社会的意義・重要性
 - ・学術的意義を有し、社会に貢献する内容か。
 - ・その研究の発展性、将来の展望を説明できるか。

最終試験（学力確認）

学位論文の公開審査会において厳正かつ公正に行われるものとする。

- 1) 学位提出論文の発表能力と内容についての質疑応答
 - ・論文内容を明確に端的に発表でき、質疑応答に的確に対応できたか。
 - ・専門領域の先端的な知識を有するか。
- 2) 本研究の関連分野における専門知識についての質疑応答
- 3) 総合評価

上記の評価項目毎に、別に定める評価基準（ルーブリック表）に基づいて、評価する。